

BY BLUE

2008
VOL
22

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌 バイブルー

- 水の逸話を訪ねて…P1
「泥の河」大阪府大阪市
- 食材を活かす 水の妙…P2
「琵琶湖の湖魚」
- 水とともに…P5
「琵琶湖疏水」
- おもしろ科学実験 水のふしぎ…P10
「水飲み鳥を作ろう!」

水辺からのメッセージ

兵庫県県民政策部政策局ビジョン課

節水道場について

節水道場による水需要抑制効果の検証

兵庫県では、県民の参画と協働により水を大切に使う暮らしを实践する事業を「節水道場」の名称で実施し、各自の創意工夫などの情報を県民に向けて発信することにより、節水型ライフスタイルの普及啓発を図り、併せて、家庭での様々な節水行動と水需要抑制効果の関係を検証しました。

節水道場では、県民から参加者を募り、各自の創意工夫に基づき無理せず続けられる範囲で6週間におたつて《水を大切に生する生活》(使用量を控えきれいに使う生活)に取り組んでもらいました。

○実施期間/平成18年7月1日～8月11日(6週間、42日)
○参加者/神戸阪神地域及び姫路市内の35家族(110人)

節水道場参加者の感想 — 続けるコツ —

○無理をせずに楽しむこと
出来ることだけを実施する/ストレスを溜めないように心に余裕を持って実践する

○マイペースで習慣化すること
日常出来ること、小さなことをコツコツとやる/水を使う時に常に意識する/「バケツ何杯?」って自分で考える/定期的に水道メーターを見るまたは記録する

○家族で取り組むこと
家族全員で節水意識をもつ、声をかけあう/家族にあまり強要しない/子供に幼い頃から水の大切さを教える

○意義を見出すこと
水だけではなく「物を大切に」の考え方を持つ/水だけでなく他のエネルギーについても家族で考え、どれも大切な事を理解し、世界中に困っている人もたくさん居る事を考える

節水道場を通じて分かったことは、続けることが効果的だと言うことです。参加者の多くは、今も節水生活を続けています。節水行動自体は特に難しいことではないのです。節水量については、節水を意識し、生活の中でごく普通の節水を実践すれば家庭で使用する一人一日あたりの平均的な水使用量より30%近く水の使用量を減少させることが分かりました。無理な節水生活は、生活に窮屈さを与えることにもなりかねませんが、意識を高めて普通の節水を行う習慣がつけば、1/2割の節水は難しいものではないと考えられます。

節水意識の少ない人にも、節水の動機付けができれば節水行動を続けることは可能です。まず、水道メーターを見て毎日の使用量を記録することから始めてみましょう。そして、家族全員で節水意識を共有して協力しましょう。



交流会



技自慢

兵庫県県民政策部政策局ビジョン課 E-mail:vision@pref.hyogo.jp http://web.pref.hyogo.jp/ac06/ac06_00000042.html

つくってみよう! 今回の生き物▶サワガニ

作者:新宮文明
おりがみくらぶ(http://www.origami-club.com/)より転載



(財)琵琶湖・淀川水質保全機構賛助会員(50音順)

計17社(平成20年3月1日現在)

(株)アクアテルス琵琶湖事業部、いであ(株)、(株)オオバ大阪支店、(株)環境総合テクノス、近畿技術コンサルタンツ(株)、(株)建設環境研究所、(株)建設技術研究所大阪本社、国際航業(株)関西支社、(株)修成建設コンサルタント、(株)新洲、帝人工コ・サイエンス(株)、(株)東京建設コンサルタント関西支店、(株)西日本技術コンサルタント、(株)日建設計シビル、(株)日水コン、(株)ニュージェック、パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社

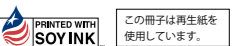


財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号大阪マーチャンドライズ・マート(OMM)ビル13階
TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036
ホームページアドレスhttp://www.byq.or.jp/

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もつてうるおいのある地域社会の形成と関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。

「BY BLUE」とは、琵琶湖(BIWAKO)・淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく、という願いから名付けました。



この冊子は再生紙を使用しています。

つくってみよう!

うらのページに、
この折り紙の
折り方がのってるよ!



土佐堀川から安治川を望む。大阪中央卸売市場が近いこともあり、高速道路の下を荷台にトコ箱を載せた自転車が走るなど、独特の活気を感じることができる町。

泥の河

堂島川と土佐堀川がひとつになり、安治川と名を変えて大阪湾の一角に注ぎ込んでいく。

(「泥の河」宮本輝著より)

太宰治賞を受賞し川三部作の一作としても有名な宮本輝のデビュー作「泥の河」。この作品の舞台となったのは昭和31年の安治川河口。川沿いの食堂に暮らす少年・喜一と、対岸の廓船で暮らす少年・喜二との出会いと別れを描いた物語。最初は得体の知れなかつた少年とひとつの秘密を共有し合つてことから芽生えた友情。しかし、喜一の母親の秘密を知ってしまったことで別離のときを迎える。一人の少年が成長していく。どこか切なくノスタルジックな香りが漂います。冒頭で描写される町の風景は、現在では高速道路の入口や、たくさんの倉庫などが並び一変しました。昭和56年に映画化もされたこの作品。映画の製作時には原作の風景はすでに無く、ロケは名古屋の中川運河や堀川で行われたという逸話も。

食材を活かす 水の妙

琵琶湖の湖魚

無形民俗文化財に指定された魚料理



ピワマスの稚魚

滋賀県の食文化は琵琶湖にあり

琵琶湖はその起源を辿ると、400万年前にもなる古代湖。様々な生物が生まれ消滅するという歴史を繰り返してきました。この琵琶湖を母なる湖として持つ滋賀県では、ここに棲む魚貝を中心として個性ある食文化が形成されてきました。この伝統を守るため、平成10年に滋賀県の無形民俗文化財として湖魚のなれずし、湖魚の佃煮、アメノイオご飯の3つの湖魚料理が選ばれました。

平安時代から食べられていたなれずし

なれずしは、すしの原型とも言われ、平安時代の延喜式に近江の特産品として記載があるほど。春に捕獲した湖魚のウロコと内臓を取り除いて塩漬し、



なれずし



干したニゴロブナをご飯に漬け込む

夏の土用の頃、水で余分な塩分を洗い落とし、水気を切つてから、ご飯に漬け込みます。暑い気候のもとで乳酸発酵がじわじわと進み、お正月頃には骨まで軟らかくなり、食べられるようになります。多くの湖魚が材料となりますが、代表格はやはりニゴロブナで作るふなずし。

一方、アメノイオとは秋の産卵期のピワマスのこと。雨が上がる



ピワマス



アメノイオご飯

きました。アメノイオご飯は、獲れたてのピワマスの内臓を除き、一尾丸ごとお米の上に乗せて炊く豪快な炊き込みご飯です。

湖魚をとりまく環境の変化

このように、琵琶湖の豊かな水の中で育まれてきた、大切な食文化である湖魚。湖岸の開発による生息域の減少、外来魚の繁殖などによりとりまく環境は変化しつづいてあります。昭和30年代には年間1万トンを超えていた琵琶湖の漁獲量も今ではその20%ほど。湖国の食文化は、琵琶湖に生きる湖魚を礎として発展してきましたが、それが失われつつある今、水辺の環境を改善し、かつての豊かな琵琶湖を取り戻す術を考えるべきときなのかもしれません。

(写真提供) 滋賀県立琵琶湖博物館

「BYQネットワークの集い2008」を開催しました!

琵琶湖・淀川水系の水環境を改善するためには、市民やNPOなど多様な主体が連携して取り組むことが求められています。

そこで、今年は琵琶湖・淀川流域で活動されている『WAQU²(わくわく)調査隊』や『BYスタンプラリーの協賛団体』のみさんから“みんなが見た琵琶湖・淀川の水質”や“みんなが見つけた水辺自慢”について発表を聞きながら、楽しく学び、交流できる「BYQネットワークの集い2008」を平成20年2月3日に、OMMビル(大阪市中央区)で開催しました。また、午前中は同時開催として、水上から大阪の町並みを見る「大阪のまちと川をいったりきたり! 水陸両用バスに乗って、エコ体験」を行い、約70名の方が参加されました。集いには、日頃BYスタンプラリーに協賛して頂いている市民団体の方、あるいはWAQU²調査隊員として活動して頂いている個人の方など200名近くの方が参加され、身近な水辺自慢の発表会や参加者による意見交換、水質浄化の体験などを行い、大盛況のうちに終わることができました。



西村局長 開会あいさつ

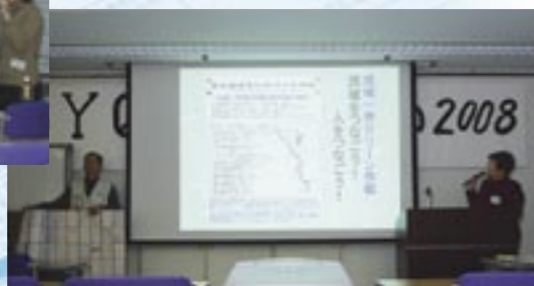
発表会:WAQU²調査隊による身近な水辺自慢

「WAQU²調査隊について」と題し、BYQの主任研究員澤田さんにお話し頂きました。そして、WAQU²調査隊(市民による水質調査活動)の隊員6組が、これまでの調査状況や身近な水辺自慢について発表しました。(写真は隊員による発表風景)



報告会:BYスタンプラリー協賛団体による身近な水辺自慢

BYスタンプラリー協賛団体の3団体による「生物指標を用いた水質調査」や「生物調査」の結果報告会を開催し、その後、会場の参加者も交えて、水質に関する疑問などについて意見交換が行われました。



基調講演

「底生動物から見た琵琶湖・淀川水系の水環境」と題して、京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授 竹門康弘氏にお話し頂きました。



親子で学ぼう水環境(体験コーナー)

親子で学ぼう水環境では、「貝による水質浄化」「水のにごりを調べよう」「ヨシで遊ぼう」「水の中の環境を調べよう」の4つのテーマで、水質について学習しました。



パネルによる活動発表

BYスタンプラリー協賛グループなど28の市民団体の方に、会場内に展示したポスターを使って、日頃の活動に関する報告や発表をして頂きました。



同時開催

『水陸両用バスに乗って、エコ体験』
水陸両用バスに乗って、大阪・大川を周遊しました。



参加者のご意見(アンケートより)

【学んだことは・・・】

- ・NPOや住民の方々によって、小河川も水質が調べられていること。
- ・発表された方が水質調査だけでなく、流域の観察をされるなど、その他の調査も同時にされていた。自分は水質調査だけしかしていなかったので見習いたい。
- ・河川の形態で水質の浄化機能が大きく異なること。
- ・水質はスポットデータのイメージしかなかったが、その数値の積み重ねによって、生物環境、生態系も見えてくること。

【良かったことは・・・】

- ・竹門先生の講演の中の、温排水の課題がこれからの問題として提示されたこと。
- ・様々な団体との交流や情報のやりとり。
- ・色々な方が取り組みをされているのを感じたこと。
- ・発表によって、WAQU²調査隊の調査結果がよくわかったこと。
- ・WAQU²調査隊の発表は、身近に感じられて有意義であった。
- ・水陸両用バスに乗れたこと。

【がっかりしたことは・・・】

- ・琵琶湖の周辺にすいぶんマンションが増えていること。
- ・静かであった。もっとにぎやかなポスターセッションを期待していた。
- ・体験は良かったが、講演会を聞きかたかった。
- ・発表会のまとめで、各報告者からだされた硝酸性窒素への疑問がそのままにされてしまったこと。

慢性的な水不足に苦しむ 京都を救った、 明治史上に残る空前の大事業

春になると見事に咲き誇る桜を見るために、多くの観光客で賑わう琵琶湖疏水。この水路のおかげで京都の人々は日々の暮らしをより豊かに過ごすことができます。



水面に映る桜もまぶしい春の琵琶湖疏水

「琵琶湖の水を京都へ」それは長年にわたる人々の夢だった

現在は豊富な地下水を有する地として知られる京都ですが、琵琶湖疏水がなかった明治前期までは、現在のような地下深くの水を汲み上げる技術がなかったため、慢性的な水不足に悩んでいました。10日も日照りが続くと干ばつによる被害に苦しめられることもしばしば。井戸水に頼らずに、安定した水の供給を受けることは人々の願いでした。

その頃の京都は、千年の長きにわたり王都として繁栄した面影は失われ、明治維新と東京遷都の影響により人口も減少。衰退の一途をたどっていました。このような状況を憂いた第3代京都府知事の北垣国道は、明治14年に京都再生の事業として琵琶湖疏水の建設を計画します。疏水の建設が成功すれば、水不足の解消だけでなく、

琵琶湖と京都を結ぶ舟運を開き、防火などの用水に利用することで産業を振興することもできる。計画は江戸時代から存在していたものの、琵琶湖から京都まで水を引くには3カ所及以上トンネル開削の必要があるため、その規模の大きさに土木技術が追いつかず実現されていなかったのです。

人々の喜びを表わす 竣工式で灯った大文字

世紀の大事業が始まったのは明治18年。北垣知事が主任技師に登用した田辺朔郎は、当時としては画期的な竖坑方式を採用するなどして作業の促進を図ります。工事は危険かつ困難を極め、途中、犠牲者が出たこともあって、一時は中止の危機に直面するなど数々の苦難にさらされますが、明治23年3月、全長87キロメートルにも及ぶ第一疏水が開通。京都へ念願



明治40年頃の蹴上インクライン

京都市上下水道局・田邊家資料

の琵琶湖の水がもたらされた瞬間でした。竣工式の際には、大文字が点火され、祇園祭の山や鉦が町に並んだ」というエピソードも残っており、市民の喜

によって京都の街に電灯の明かりが灯り、これもまた日本初となる電気鉄道の開通の原動力となりました。この頃から京都はかつての活気を取り戻し、近代都市としての道を歩むこととなります。その後も、第二疏水や上水道などの建設が進められ、市民の貴重な水源として、価値を高めていったのです。

明治の先達によって成し遂げられ、市民に計り知れない恩恵を与えた疏水事業。100年以上がたった今も、琵琶湖の水は京都の「命の水」として生活の営みを支えています。

びがいかに大きかったかを物語っています。疏水の建設は途中、いくつかの変更をしますが、その最も大きな点は、蹴上に日本初となる水力発電所を建設したことでした。ここから送電される電力

琵琶湖疏水略図



琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(Biyoセンター)は、琵琶湖・淀川水系の水環境改善のために、自然の浄化能力を生かした水質改善など、新たな水処理技術を開発する研究開発の場として、また、水環境改善に対する取り組みについて、多くの人々に知ってもらうための場として設置された施設です。



実験風景

Biyoセンターにおける増殖実験
タナゴ類は二枚貝の体内に卵を産み付けるという不思議な繁殖生態を持っており、産卵に使う二枚貝(産卵基質)の種類によって使い分けられていることが知られています。希少タナゴ類の産卵基質への「好み」を知ることが非常に重要になります。今回は、屋外であり琵琶湖の水を



実験に使用したタナゴ類(写真はイチモンジタナゴ)



実験に使用した二枚貝(上段がタテボシガイ、下段がヌマガイ)

「希少タナゴ類の増殖実験」

実験レポート 平成19年度 市民団体 共同実験 ぼてじやこトラスト

絶滅が危ぶまれるタナゴ類

近年、生息環境の変化やオオクチバスやブルーギルなどの外来魚の影響によって在来の淡水魚が全国的に減少傾向にあります。特に小型のコイ科魚類であるタナゴ類の減少が著しく、イタセンパラやニッポンバラタナゴなどを筆頭に、日本産のほとんどすべての種類が環境省のレッドリストに記載されています。このような状況は、琵琶湖周辺においても例外ではなく、滋賀県のレッドデータブックではすべての種類の在

来タナゴ類が絶滅危惧種などとして記載されています。

ぼてじやこトラストの活動

「ぼてじやこトラスト」(会長 笠文彦)は、1996年(平成8年)に発足した小魚を愛する市民の集まりで、ぼてじやこ(琵琶湖周辺におけるタナゴ類の俗称)の調査を行いながら、観察会や川遊びなどを開催して琵琶湖周辺の小魚の保全や自然環境に対する啓発活動を行っています。これまでの活動を通じて、滋賀県立琵琶湖博物館を始めとした研究機関、行政機関、他の市民団体などと密接な関係を築き上げており、今回の実験もこのような関係機関の協力のもとで実現されました。なお、実験に当たっては、岐阜大学の北島淳也さんにご指導を受けました。

Biyoセンターにおける増殖実験

タナゴ類は二枚貝の体内に卵を産み付けるという不思議な繁殖生態を持っており、産卵に使う二枚貝(産卵基質)の種類によって使い分けられていることが知られています。希少タナゴ類の産卵基質への「好み」を知ることが非常に重要になります。今回は、屋外であり琵琶湖の水を

直接利用できるBiyoセンターの実験施設において、タナゴ類の増殖実験を行いました。

実験にはヌマガイ(ドブガイの一種・写真下段の大きな貝)とタテボシガイ(写真上段の小さな貝)の2種類の二枚貝を用い、希少タナゴ類がどちらの二枚貝に産卵するか、また、これらの二枚貝でどの程度の増殖が可能なのかを調べました。イチモンジタナゴ(写真)と2種類の貝を入れた実験では、ヌマガイのみに産卵が確認され、タテボシガイには産卵が確認されませんでした。二枚貝の内部に確認された卵の数は合計317個で、90mm前後の大型のヌマガイに多数の産卵がみられました。

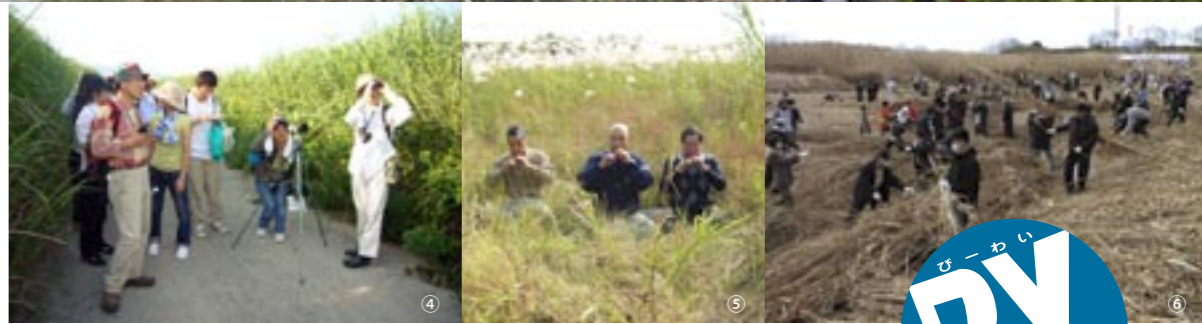
また、イチモンジタナゴの雄雌4匹ずつとヌマガイのみを入れた実験では、実験を開始した4月から魚を

希少タナゴ類の保全に向けて

「ぼてじやこトラスト」では、今回の実験で得られた知見や経験をこれからのタナゴ類の調査、保全、啓発活動に活かして行こうと考えています。例えば、ここ数年ほとんど採捕例がなく、2007年3月に滋賀県の指定希少野生動物植物に選定されて県内での採捕が禁止になったイチモンジタナゴについては、日本魚類学会で定められた「生物多様性の保全を旨とした魚類の放流ガイドライン」に準拠し、希少タナゴ類の放流(再導入)および生息環境の改善の検討を、関係機関との合意形成、連携を図りながら進めていこうと考えています。



①ヨシ苗を植えて育てる活動
②トネハナヤスリやノウルシなど、一面に広がる絶滅危惧植物を観察
③淀川からの導水路で遊ぶ
④27,000羽のツバメのねぐら入りを観察
⑤雅楽のヨシは雅楽の首を支えています。楽器・筆樂の演奏
⑥1月末に行われたヨシ刈りには約250人が参加。寒い中、汗をかきながら奮闘



●BYスタンプラリー協賛グループ紹介 「鵜殿クラブ」

目指すは「鵜殿のヨシ原」再生
雅楽が縁で広がる会員の輪

■今回は会長の長屋昭義さんにお話をうかがいました。

高槻市の淀川右岸に広がる75畝の広大なヨシ原。鵜殿と呼ばれるこの一帯は、筆樂(※1)の蘆舌(※2)に最適な良質のヨシが採れることで全国的にも有名な地域です。

この鵜殿で、1998年の発足から約10年間、自然と生き物の保全を目指した活動を続けているのが鵜殿クラブです。

シニア自然大学の一期生だった長屋さんが鵜殿のヨシ原に足を運ぶようになったのは1995年頃から。鵜殿ヨシ原研究所所長の小山弘道氏を中心としたヨシの生育調査を手伝い始めたことがきっかけでした。「ここでの調査結果をできるだけたくさんの人に見てもらいたいな、ということから鵜殿クラブを設

立したのです」。

現在の活動は鵜殿ヨシ原研究所の週一度のヨシの生育調査、地下水の調査への参加。また、月に一度の「鵜殿の観察会」や会報誌「鵜殿通信」の発行を通して、鵜殿の自然環境について広く発信しています。その成果が、総合学習授業の一環としてヨシ原を見学に来たり、鵜殿のヨシで作った紙を卒業証書として使う小学校が出てきたり、ヨシ紙が市販されたり「地元の人々の鵜殿への関心が高まってきたことが、10年の活動を通して感じる」とのこと。

現在の会員数は約80人。「会員の中には地元の人もありますが、九州や関東など雅楽が縁で会員になってくださっている方もいます」。



会長 長屋 昭義さん

平安時代から続く日本の伝統芸能、雅楽を支える鵜殿のヨシ。「かつてこの地域の面積の70%を占めていたヨシが、現在では約25%の状況になっています。今後行政などと上手く連携をとりながら、昔のように「鵜殿のヨシ原」と言えるような状態にするというのが目標です」。

※1 筆樂(のちりき) … 日本の伝統芸能である「雅楽」で使われる楽器
※2 蘆舌(ろせつ) … 楽器に使われる、振動して音源となる部品。リットルともいいます。

BYスタンプラリーとは、協賛グループの活動に参加してスタンプを集め、事務局に送付していただく、素敵な景品を差し上げるといったものです。これまで1870人の方がご応募くださいました。また協賛グループは、58の市民団体と20の水関連施設で構成されています。(平成20年2月末現在)

めざせ! 水アーティスト 水飲み鳥を作ろう!

「れんげ」を使って、動きがかわいい水飲み鳥を作りましょう。水をごくごく飲んだあと、ひとりでに首をもたげて、おしっこ。これをくり返す鳥は、見ていてあきません。手で動かしているわけでもないこの動き、いったいどんな仕組みがあるのでしょうか?



用意するもの

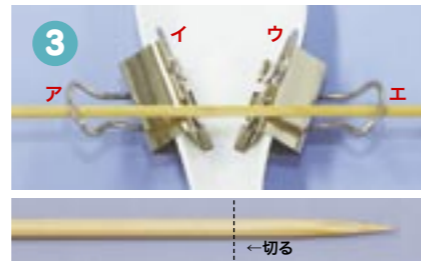
コップ、れんげ、皿、クリップ(ダブルクリップ) 2つ、洗たくばさみ4つ、竹ぐし、ガーゼ、水、カッターナイフ、はさみ
※水がこぼれることがあります。水でぬれると困る場所では、やらないようにしましょう。



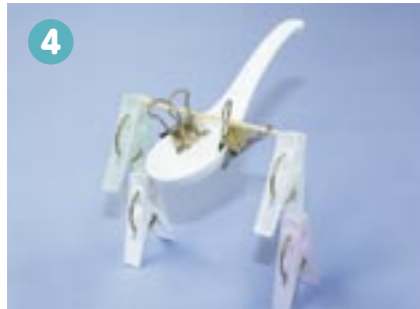
洗たくばさみを写真のように組み合わせたものを、2セット作ります。



クリップ(ダブルクリップ) 2つを、れんげに取り付けます(写真の位置ではさむ)。アームの部分は上に折り返したままにしておきましょう。



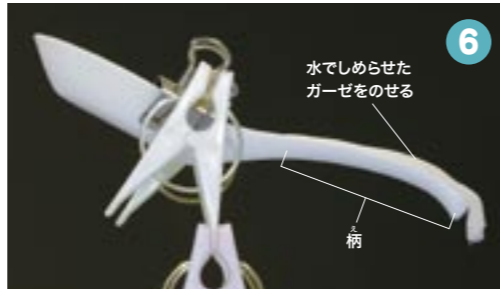
クリップのアームの輪に、竹ぐしを通します。アームは4つありますが、写真のアとエの2か所だけに通します。竹ぐしのとがった部分は、あらかじめカッターナイフで切っておきましょう。



竹ぐしの両はしを洗たくばさみではさみます。洗たくばさみをスタンドにして、装置全体がちゃんと立つようにします。



ガーゼをストローのように丸めて、四重くらいに重ね合わせます。それを、れんげの柄より少し長めになるように、はさみで切ります。



ガーゼを水でしめらせて、れんげの柄の部分にのせます。柄の端からガーゼが少し出るようにします。れんげが上の写真のようなかたむきになるように、クリップの位置を調節します。(ガーゼをのせた方が下がりすぎる時は、クリップをアの方向にずらします。反対に、かたむき方が足りない時は、クリップをイの方向にずらします。=写真右)



水をあふれるくらい入れたコップのふちに、れんげの柄をのせます。コップの水面が、れんげの水のたまる部分より高くなるようにします(コップの下に物を置いて、高さを調整しましょう)。また、コップの反対側には、皿(水受け)を置いておきましょう(写真A参照)。やがて、コップの水がガーゼを伝って、れんげの中にとまっていきます。れんげの

柄が鳥の首、反対側がおしりです。柄の先の方に、油性マジックで目をかくといいですね。1~2分たつと、とつぜん首をもたげて、おしりのほうから水がこぼれます。すると、首が下がり、コップのふちをコンとたたいて元の位置にもどります。この動きをくり返します。

今回のふしぎワード

毛細管現象 水には、せまいすき間を上っていく性質があります。これを「毛細管現象」と言います。この水飲み鳥の場合は、ガーゼの編み目のすき間が水が上っています。その水が溜まった重みでれんげが動くのです。冬の寒い朝、土の表面にできる霜柱も毛細管現象によるもの。土の中の水分が土の隙間を上がっていき、地表面の冷たい外気によって凍ったものなのです。

実験の手順は「ソネット キッズパーティー 100円ショップ大実験」から転載

BYQ INFORMATION

お申し込み・お問い合わせ: (財) 琵琶湖・淀川水質保全機構 TEL.06-6920-3035 FAX.06-6920-3036 ホームページ <http://www.byq.or.jp/>

平成20年度助成対象事業 募集のお知らせ

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、琵琶湖・淀川の水質保全に関わる活動に対し、助成事業を行っています。平成20年度助成対象事業・活動を次の内容で募集します。対象となる事業は以下の2項目です。

I. 琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

- ・地域に密着した身近な水質浄化事業
- ・水質浄化事業に必要な材料調達システム作りおよび材料調達
- ・水質浄化事業におけるリサイクル推進事業
- ・上記に関連する研究など

II. 琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動

- ・水質の保全・改善に関する活動
- ・自然生態、親水、水源涵養の機能を保全・改善する活動
- ・水環境について知り、理解する活動

両助成ともに1件あたりの助成限度額は30万円。助成金の使途は、助成目的を満足するものであれば、特に制限を設けません。助成を受けた団体又は個人の事務所そのものの運営に関する経費、人件費等は除きます。

- ◇申込締切:平成20年5月15日(木)(必着)
- ◇申請方法:応募様式に必要な事項をご記入の上、お申し込みください。
*各助成の応募には助成資格を設けています。詳しくは募集要項をご覧ください。
*募集要項・応募様式は、ホームページからダウンロードしていただけます。
- ◇問い合わせ先:(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部

<これまでの助成団体数> ・琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業助成(平成11年度~19年度)…11件
・琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動助成(平成10年度~19年度)…40件

BYQ情報特派員 募集のお知らせ

～身近な自然現象についての情報を教えてください!～

琵琶湖・淀川流域において、地球温暖化等の影響とも考えられる琵琶湖における北湖深層の溶存酸素量低下や流域生態系の遷移、公共水域における有害化学物質等の流出による生物等への影響、また、外来種の異常繁殖と固有種や希少種の激減等、自然現象における様々な状況変化が懸念されています。そこで、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構では、流域で水環境保全に関わる人達や興味のある方に身近な水環境における変化等の情報について提供していただく『BYQ情報特派員』を結成し、皆さんと情報共有することにより、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術開発等に役立て、淀川水系の水質保全に寄与したいと考えています。

◇活動内容:① 日常生活を通じ、自然現象(気象・水象・水環境等)に関する変化についての情報を提供していただきます。

- (例) ・去年まで見かけない●●草が、繁殖している。
- ・△△草が、去年より少し早く咲いた。
- ・今年、××虫が異常に多い。
- ・○○川に魚が、数十匹浮いている。
- ・ホテルを昨年とほぼ同時期に▲▲で見た。

- ・今年、稲の生育が早い。
- ・○○頃から、▽▽池に大量の藻が発生している。
- ・初雪が■で降ったが、例年より遅い。
- ・琵琶湖の□□地域あたりの水面の色が、緑色になっている。等

- ② 情報提供は、年10回以上とさせていただきます。
- ③ 情報は、内容の他、発見の日時・場所(できれば写真を添付)をメール・FAXにてお願い致します。
- ④ 上記②をクリアした特派員の方には、情報提供の謝礼として、図書カードを送付させていただきます。
- ⑤ 活動期間は、平成20年4月1日~平成21年3月31日(以降、1年毎更新の予定)

- ◇応募資格:琵琶湖・淀川流域圏*に住み、年齢が18歳以上で水環境に興味のある方。
*琵琶湖・淀川流域圏:琵琶湖・淀川流域(淀川・宇治川・桂川・木津川・猪名川)と、琵琶湖や淀川の水を利用している地域
- ◇募集人数:100名(1世帯につき1名)とさせていただきます。
なお、応募人数が100名を超えた場合は、各流域等を勘案してBYQにて決定させていただきます。
- ◇応募受付:平成20年4月末日まで
- ◇応募方法:下記の応募フォームに、必要事項を記入していただき、郵送またはFAXでお申し込みください。
- ◇問合せ先:(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部

BYQ情報特派員 応募フォーム

ふりがな	団体名		
氏名	年齢	性別	男・女
住所	〒		
電話番号	FAX		
e-mail			

※応募いただいた方の個人情報については、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構が厳重に管理し、本件に関する以外にはご本人の承諾なしに第三者に提供することはありません。